

○倉吉西瓜生産部会では平成29年に「倉吉スイカ16億円達成プロジェクト」を立ち上げ、令和2年度には「倉吉西瓜産地強化・加速化プラン」(地域プラン)を策定し、普及所では、産地のさらなる発展に取り組んでいる。

○令和4年産の販売額は12.7億円、反収は352csとなり、地域プラン目標を3年前倒しで達成した。

また、令和3～4年の2年間で新規就農者が10名増加し(親元就農も含む)、研修生(雇用等)も4名確保できた。

具体的な成果

1 技術の見える化による技術伝承

■各管理作業の動画マニュアルを制作して部会へ公開した結果、新規栽培者を中心に好評であった。

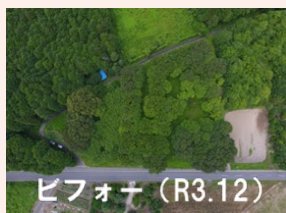


《動画視聴回数》

計1,007回(30本)、6～97回視聴/本

2 優良農地の確保と継承に向けた支援

■R3～4年にかけて4か所、計1.9haの耕作放棄地がスイカ畑へ再生し、入植者5名も決定した。



3 新規就農者確保に向けた取組支援

■R3～4年の2年間で新規就農者が10名増加した(親元就農も含む)。また、研修生(雇用等)も4名確保できた。



産地や研修の紹介などの動画が見れます



普及指導員の活動

■ベテラン生産者の管理作業マニュアルを動画作成し、部会員で視聴した。

■新規栽培者向けの勉強会を行い、栽培期間中の失敗例、質問等をまとめたQ&Aを作成し、作付準備前の座談会で配布した。

■部会員への作付け意向、農地アンケート結果(回収率93%)をもとに農地情報を収集し、マッチングする仕組づくりを支援した。

また、土壌調査を行って入植希望者に見てもらい、入植を後押しした。

■産地や部会での支援体制、研修生の様子、新規就農者の声を入れた動画を部会、農協と連携して制作し、動画のQRコード付きPRチラシ作成を支援した。

■地域プランを活用した事業の実施に係る年度当初の検討会や中間検討会(9月上旬)を実施し、調整支援を行った。

普及指導員だからできたこと

・新規就農者確保に向けた取組支援では、産地や部会での支援体制、研修生の様子、新規就農者の声を入れたPRチラシで、就農希望者に分かりやすく、興味を持ってもらえる情報提供をすることが出来た。

・新規栽培者向けの勉強会を行ったり、栽培期間中の失敗例、質問等をまとめたQ&Aを作成・紹介するなどして、育成に向けた産地全体の取組を後押し出来た。

倉吉西瓜の産地強化・発展支援

活動期間：平成29年度～令和4年度

1. 取組の背景

倉吉西瓜生産部会では平成29年に「倉吉スイカ16億円達成プロジェクト」を立ち上げ、産地主導型の新規就農者確保に向けた取組等を行い、これまでに23名の新規就農者を確保してきた。

また、令和2年度には「倉吉西瓜産地強化・加速化プラン」（地域プラン）を策定し、「新規就農者の確保」「担い手の育成」「優良農地の継承」「収益性の向上」「ブランド力の向上」の5項目を重点課題として、産地のさらなる発展に取り組んでいる。まずはプラン目標（目標年：R7年度）である販売額12億円や、新規就農者確保（20名／R3～7の5年間）等を目指す。

2. 活動内容

1 技術の見える化による技術伝承

- (1) ベテラン生産者の管理作業を視点カメラで撮影して、動画によるマニュアルを作成し、部会員がYou Tubeで視聴できるよう共有した（計30本）（写真1）。
- (2) スマート農業（ハウスサイド自動巻き上げやリアルタイム環境モニタリングシステム※）の導入事例を紹介、推進した。
※温度等の情報がスマホ等でどこでもいつでも確認できるシステム

2 新規栽培者の出荷率向上に向けた取組

- (1) 新規栽培者向けの勉強会支援
 - ・新規就農者、研修生、指導部員、新規就農担当役員で意見交換・圃場巡回（交配時期）
 - ・出荷指導会（6月上旬） ・R4年作反省会、肥料勉強会（10月中旬）
- (2) 新規就農者等計12名に対し、営農指導員と一緒に面談
※1年目の生産者は役員も同行
（本作の着果率、出荷率、反省点と次作への改善点、要望の聞き取りなど）
- (3) 栽培期間中の失敗例、質問等をまとめたQ&Aを、指導担当の部会員と相談して作成、作付準備前の座談会で配布（写真2）。

3 優良農地の確保と継承に向けた取組支援

- (1) 部会員への作付け意向、農地アンケート結果（回収率93%）をもとに農地情報を収集し（部会独自の様式も検討）、情報提供、マッチングする仕組みづくりを支援した。
- (2) スイカ農地再生（4ほ場190a）に向け、人・農地チーム会議等で事業実施に向けた調整を行った。土壌調査を行って入植希望者に見てもらい、入植を後押しした（写真3、4）。

4 新規就農者確保に向けた取組支援

- (1) 産地や部会での支援体制、研修生の様子、新規就農者の声を入れた動画を

- 部会、農協と連携して制作し、動画のQRコード付きPRチラシ作成を支援した（写真5）。
- (2) 農大等と連携した活動（講義や雇用就農相談会への参加、産地体験会など）支援
 - (3) 就農相談会への参加支援（新・農業人フェア（11月））
- 5 地域プランを活用した産地活性化の取組支援
- (1) 地域プランの進捗状況や今後の取組について、年度当初の検討会や中間検討会（9月上旬）を実施し、情報共有や意見交換を行った。
かん水設備の整備等、プランを活用した事業の実施に係る調整支援を行った。
 - (2) トンネル支柱の融通の仕組みづくりについて部会に働きかけ、運用に向けた協議、生産者への周知、支柱の現地確認等を営農指導員と支援した（2年間で4,770本融通（写真6））。
 - (3) 産地PR支援（Sun-in 未来ウォークやとっとり・おかやま新橋館でのPRに係る調整等）

3. 具体的な成果

- 1 R4年産の生産及び販売ともに好調で、販売額12.7億円、反収352csとなり、地域プラン目標（R7）を3年前倒しで目標を達成した。
- 2 各管理作業の動画マニュアルを指導部と制作して部会へ公開した結果、新規栽培者を中心に好評であった。動画を参考につる引きをして病気が減ったという声もあった。《動画視聴回数》計1,007回（30本）、6～97回視聴/本
- 3 部会の指導体制が確立してきており、また着果率、出荷率をいかに向上させるか、個々によく考えて栽培できていることから、重点対象の新規就農者の7割以上が出荷率90%以上であった。
- 4 R3～4年にかけて4か所、計1.9haの耕作放棄地がスイカ畑へ再生し、入植者5名も決定。R5年作からスイカの栽培が開始される見込みである。
- 5 新規就農担当役員を中心に、産地PR動画、チラシの作成、就農相談会への出展等に積極的に取組んだ結果、R3～4年の2年間で新規就農者が10名増加した（親元就農も含む）。また、研修生（雇用等）も4名確保できた。
- 6 計画以上の成果が出ていることから、部会役員を中心に産地全体で活性化の意識が高まっており、選果場の整備など、更なる産地発展の取組が検討されている。

4. 農家等からの評価・コメント

各管理作業の動画マニュアルは、新規栽培者を中心に好評であり、動画を参考につる引きをして病気が減ったという声をもらった。

5. 普及指導員のコメント

部会役員を中心に産地全体で活性化の意識が高まっており、選果場の整備な

ど、更なる産地発展の取組を支援していく。

6. 現状・今後の展開等

- (1) R5 年作から導入が増えるリアルタイム環境モニタリングシステムの有効活用を支援する。
- (2) R5 年作は特に新規就農者が多いため（独立就農3名、親元就農開始2名、雇用就農研修生3名）、親方や役員、ベテラン生産者、JAと連携しながら指導体制を強化する。
- (3) 農地情報の収集・共有の仕組みづくりを軌道に乗せる。新たな土地でのスイカ農地再生。
- (4) 産地体験会の参集範囲や内容の検討、マスコミを活用しながらのPR活動の実施等、R4の反省を踏まえた新規就農者確保に向けた活動の発展を支援する。

《表やグラフ等のデータや写真等》

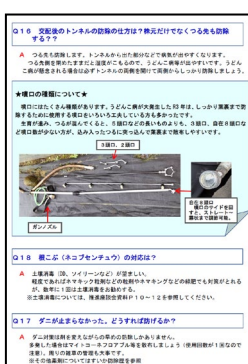
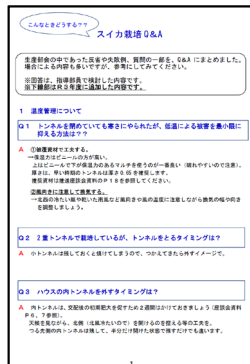


写真2 Q&A 抜粋



写真3 第1弾の再生前の農地（左）と再生後の農地（右）



写真4 土壌調査の様子



産地や研修の紹介などの動画が見れます



写真6 トンネル支柱融通の様子

写真5 新規就農希望者向けPRチラシ